

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

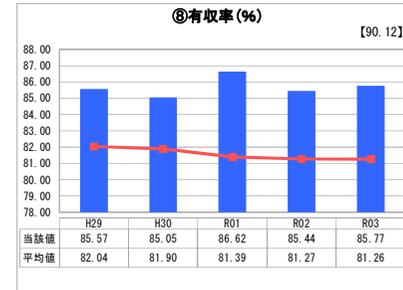
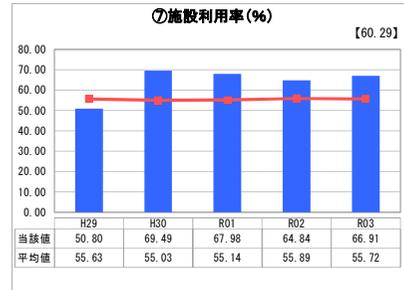
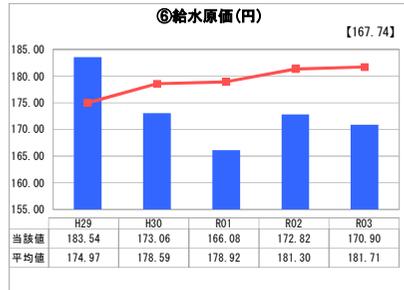
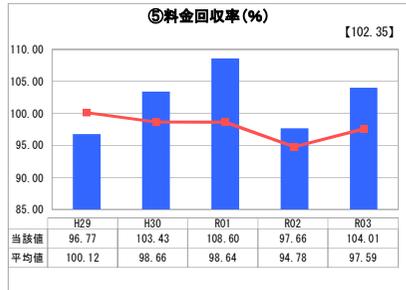
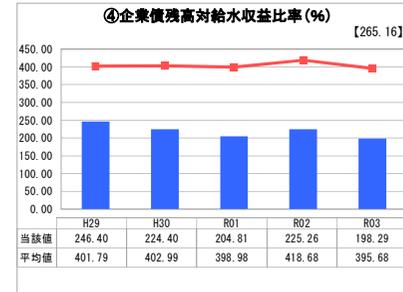
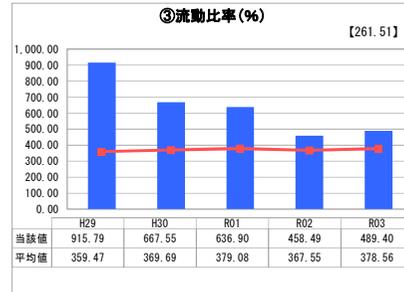
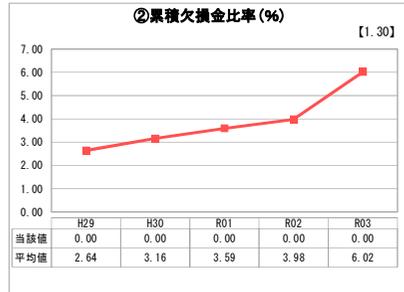
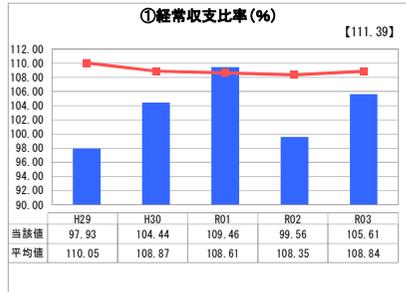
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	78.10	99.80	2,365	

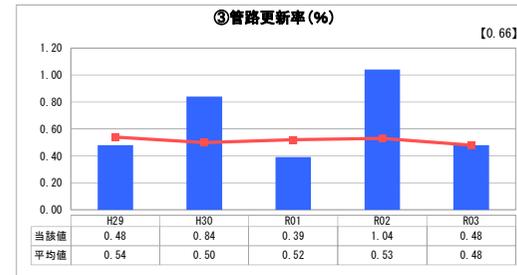
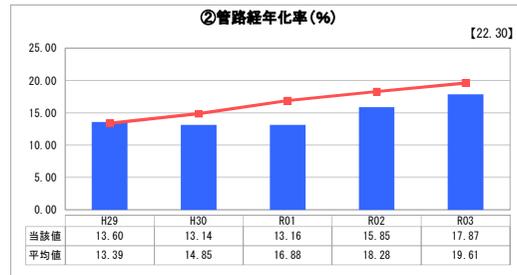
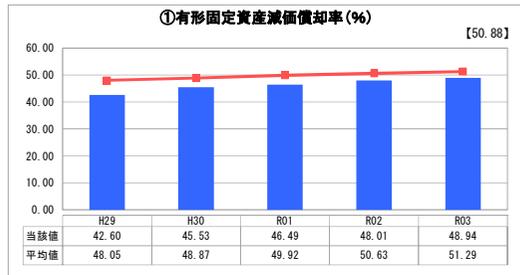
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,390	38.64	475.93
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,277	38.64	473.01

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率  
経常収支比率は100%を上回り黒字となったが、類似団体平均を下回っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により大口使用量が減少したことや、2か月分の基本使用料を免除したことにより給水収益が減少していたが、令和3年度は大口使用量が回復傾向にあり黒字となった。

②累積欠損金比率  
累積欠損金は生じていない。

③流動比率  
100%を大きく上回っていることから、短期的な債務に対する支払能力はあるが、建設改良費等の増加により、現金等の流動資産が減少しているため下降傾向にある。

④企業債残高対給水収益比率  
企業債残高の減少により、数値が減少している。今後は施設更新に伴う借入により数値が上昇する見込みであり、状況を注視していく。

⑤料金回収率  
大口使用量の増加による給水収益の増、及び長期前受金入りの増加により、料金回収率は100%を上回ることができた。

⑥給水原価  
昨年度より有収水量が増加したため、給水原価は減った。類似団体平均を下回っており安価な原価で供給している。今後は人口減少とともに有収水量の減少が見込まれるためコスト削減に努める。

⑦施設利用率  
使用量の増加により、1日平均配水量が増加したため、昨年度に比べ施設利用率は増加している。今後は人口減少等により数値が低下していくと考えられるため、ダウンサイジング等を検討していく。

⑧有収率  
類似団体を上回っているものの、漏水等の無効水量をさらに減少させ有収率をさらに上昇させることが重要と考える。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率  
類似団体平均を下回っているが、緩やかに上昇している。今後は経年による施設全体の老朽化が進み、上昇する見込みである。

②管路経年化率③管路更新率  
管路経年化率は前年度より上昇しており、老朽化が進んでいる一方、管路更新率は前年度より低下し、0.48%に留まっている。これは、前年度に比べ口径の大きい管路の布設替工事を実施したため、更新延長が少なくなったことによるものである。施設更新については、吉見町水道事業ビジョン及び基本計画に基づき計画的に実施している。今後も引き続き、計確認に基づき継続的な施設更新を進めていく。

### 全体総括

本年度は給水収益が増加し、経常収支比率が100%を上回った。しかし、建設改良工事等の増加により、資金残高は減少傾向にあるため、経営の健全性・効率性としては良好とは言えない。今後は大口使用量の動向を注視するとともに、引き続き企業債の借入を実施し、適切な施設の維持管理、施設規模の見直し等を検討していく。また、来年度も有収率の改善に向けて、アセットマネジメント計画に基づき老朽化の更新及耐震化の促進に努めるほか、漏水調査を引き続き実施していく。

今後も、本町の水道事業ビジョンに掲げる基本理念である「より安全・安心で、しあわせを守る みんなの水道水」を目標に、安全な水道水と安定供給の確保のため、より一層の経営基盤の強化を図っていく。

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

埼玉県 吉見町

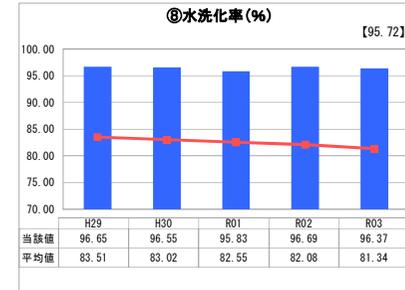
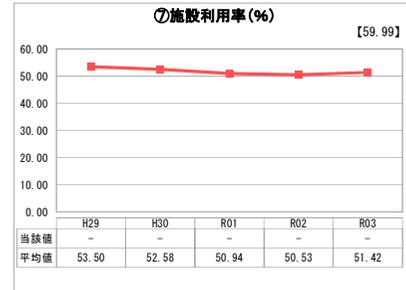
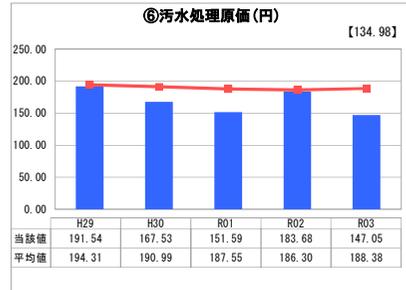
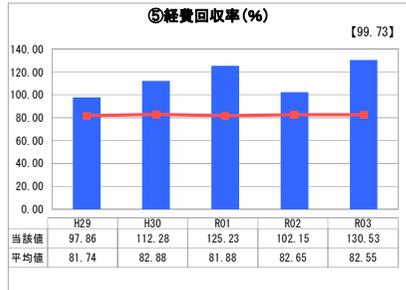
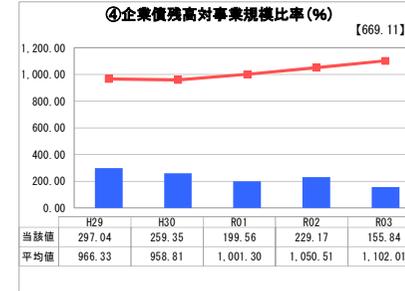
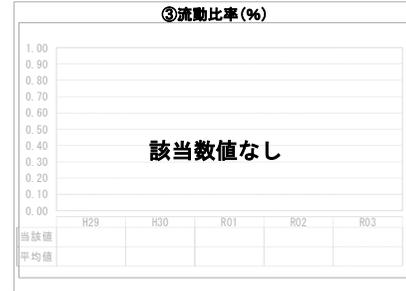
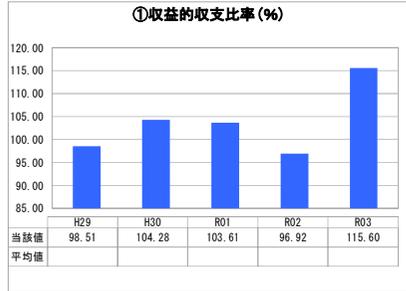
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	13.68	97.10	2,145

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,390	38.64	475.93
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,505	0.99	2,530.30

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
令和3年度は令和2年度と比べ18.68%と大幅に上昇した。これは、大口使用者の使用量増加を主な要因として、使用料収入が34,610千円増加したためである。

④企業債残高対事業規模比率  
令和3年度は前年度に比し、73.33%減少した。全体的にも減少傾向にある。これは施設の新規建設がなく、起債発行が少ない一方で、償還が進んでおり、地方債現在高が減少しているためである。

⑤経費回収率  
令和3年度は前年度と比し28.38%と大幅に増加した。これは①と同様、使用料収入の増加が主な要因である。

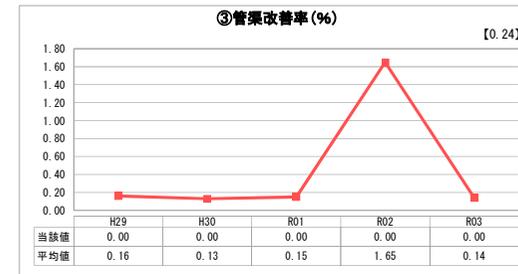
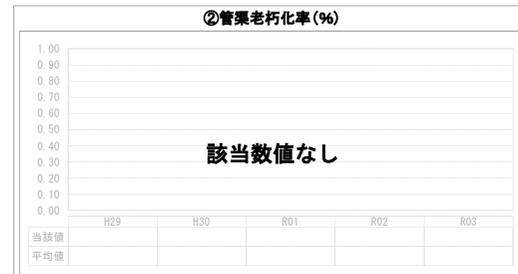
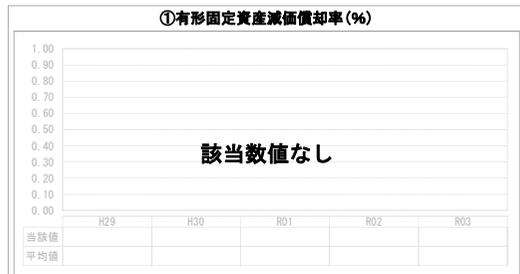
⑥汚水処理原価  
令和3年度は前年度と比し、36.63%と大幅に減少した。これは①と同様大口使用者の使用量増加が主な要因である。

⑧水洗化率  
例年と同じく95~96%台で推移している。全国の類似団体の平均を上回っている。

### 2. 老朽化の状況について

現在のところ管渠等の老朽化は見られないが、20から30年後には管渠の老朽化が生じてくると思われる。これに備えて今後も経費節減に加え、計画的な施設の維持管理に努める。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

令和3年度は前年度と比べ使用料収入が増加したことで、収益的収支比率、経費回収率及び汚水処理原価の数値が改善した。今後も経費節減に加え、計画的な施設の維持管理に努め、効率的で安定的な経営を実施していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

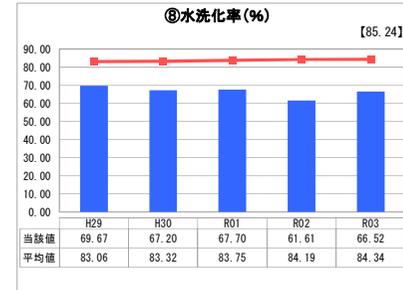
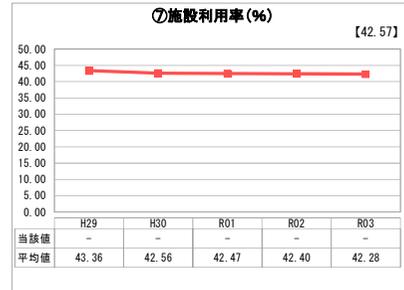
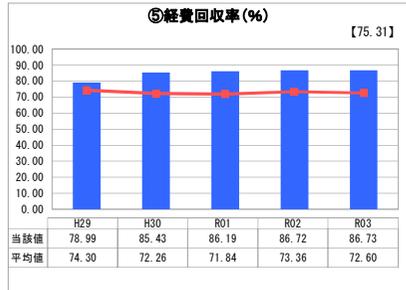
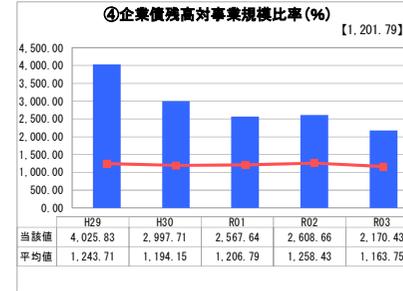
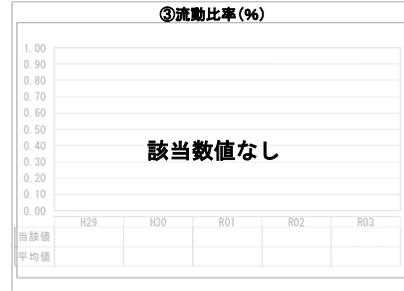
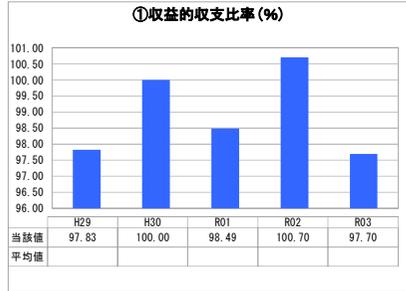
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	14.84	97.12	2,145

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,390	38.64	475.93
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
2,718	1.16	2,343.10

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
令和3年度は令和2年度に比べ、3.00%減少した。令和3年度は令和2年度に比べ、3.00%減少した。地方債償還金が2,919千円増加していることが主な要因である。本事業は事業開始以降、施設の新規建設を続け、その財源として地方債を発行しており償還額は増加傾向にある。

④企業債残高対事業規模比率  
令和3年度は前年度と比し、438.23%減少した。全体的にも減少傾向にある。これは、地方債現在高が減少傾向にあるためである。

⑤経費回収率  
使用料収入及び汚水処理費に大きな変化がなく、比率にほとんど変化がない。

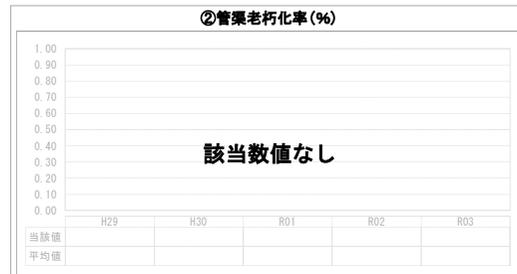
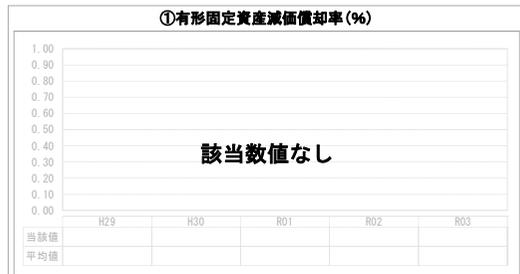
⑥汚水処理原価  
ほぼ横ばいで推移しているが、令和2年度以降わずかに減少が認められる。これは主に有収水量の増加によるものである。令和2年度に供用開始した区域の接続件数の増加と依然として新型コロナウイルス感染症の影響で一般家庭の在宅時間が感染拡大前と比べて長いことが、有収水量の増加に繋がったと考えられる。

⑧水洗化率  
令和2年度は新区域の供用開始により令和元年度と比べ6.09%減少したが、接続が進んでおり令和3年度は前年度比4.91%増加した。

### 2. 老朽化の状況について

現在のところ管渠等の老朽化は見られないが、20か30年後には管渠の老朽化が生じてくると思われる。これに備えて今後も経費節減に加え、計画的な施設の維持管理に努める。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

収益的収支比率、経費回収率及び汚水処理原価は昨年度とほぼ同じである。企業債残高対事業規模比率は昨年度と比べ減少した。経営状況の悪化は見られないが、今後も接続促進や経費節減を行い、計画的で安定的な経営を実施していく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

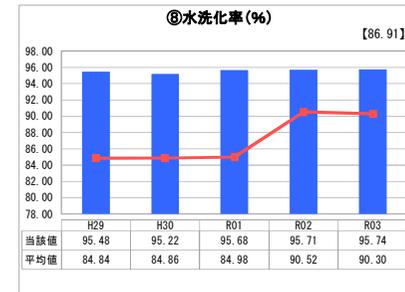
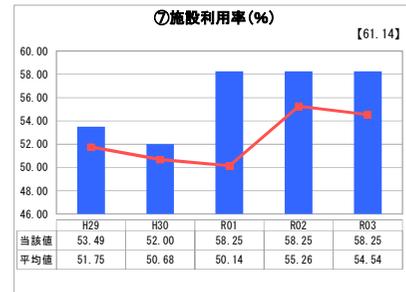
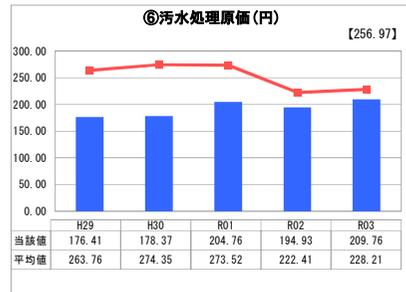
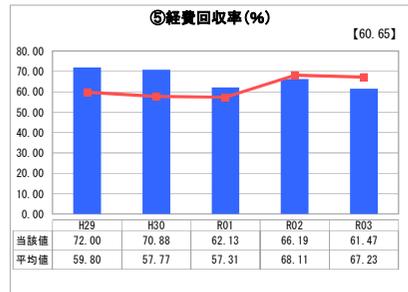
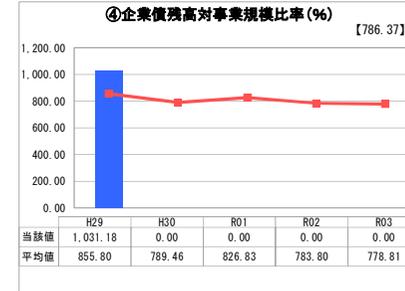
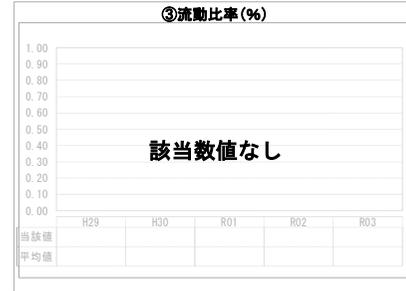
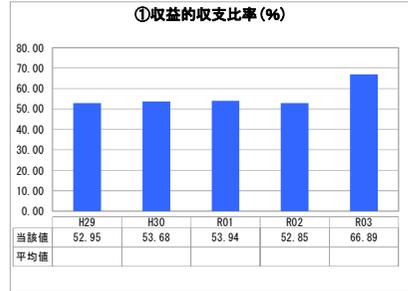
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	27.68	100.00	2,145

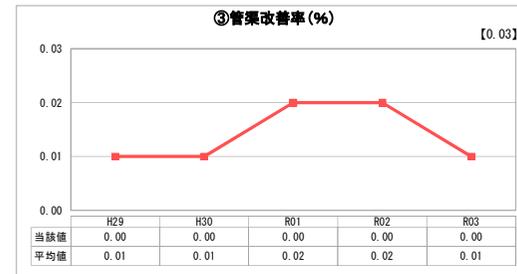
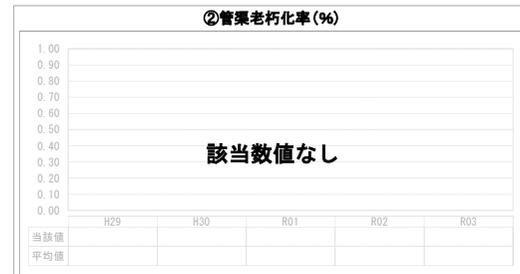
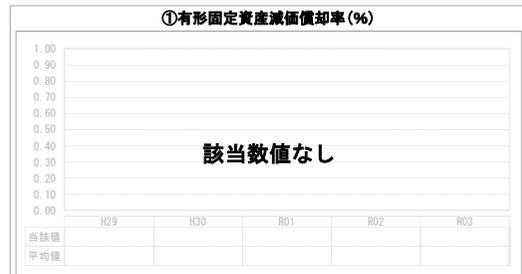
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,390	38.64	475.93
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,070	7.73	655.89

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
□	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
令和2年度まで大きな変化はないが、令和3年度に前年度比14.04%増加している。これは主に一般会計繰入金が前年度比45,243千円増加したことが主な要因である。これは、令和3年度は建設改良費が前年度比99,438千円減少し、その財源であった一般会計補助金が減少し、繰入基準額満額の繰入れとなったためである。

④企業債残高対事業規模比率  
地方債現在高と一般会計負担額が同額のため、平成30年度以降は0%となっている。

⑤経費回収率  
経費回収率は低下傾向にある。令和3年度は処理場の維持管理に関する委託料が前年度比9,435千円増加しており、これにより汚水処理費が増加したことが比率の低下の主な要因である。

⑥汚水処理原価  
経費回収率の増減に反比例して推移している。令和3年度は前年度比14.83円上昇した。これは上記の汚水処理費の増加要因に加え、有収水量が9,121m<sup>3</sup>減少したことが要因である。

⑦施設利用率  
50%台で推移している。全国平均・類似団体平均値を上回っている。これは水洗化率の高さによるものと思われる。

⑧水洗化率  
95%台で推移している。事業開始時に地元住民の組合が宅内の排水設備等を一括して施工したため、ほとんどの家庭で接続済みとなっていることによる。

### 2. 老朽化の状況について

供用を開始してから30年を経過している区域があるため、最適整備構想等を策定し対応して行く予定である。

### 全体総括

各指標とも、全国平均・類似団体平均値より良いが、改善に向け今後も計画的に安定した事業運営ができるよう努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

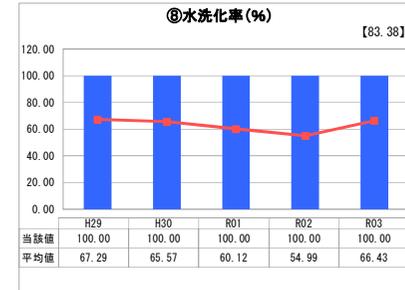
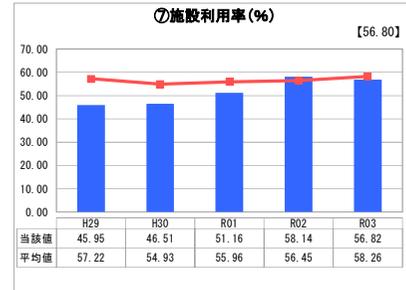
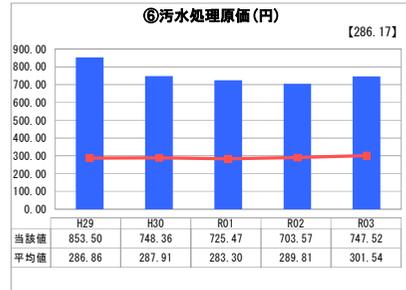
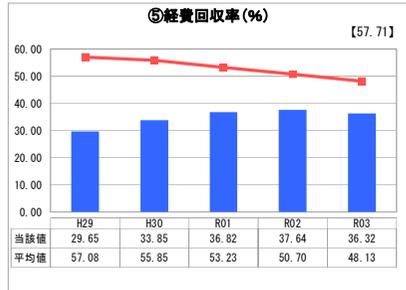
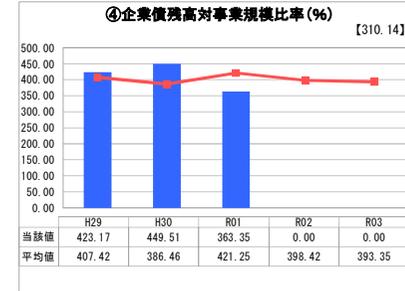
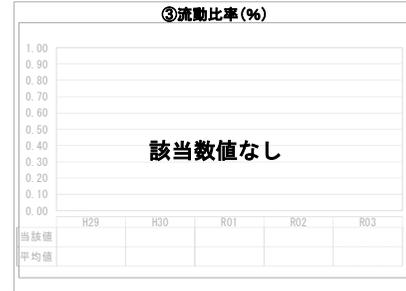
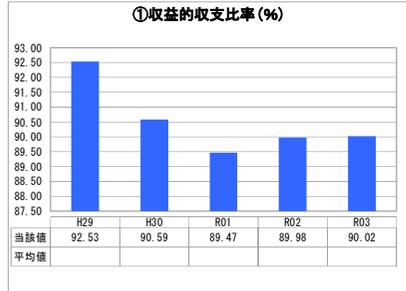
埼玉県 吉見町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.45	100.00	3,300

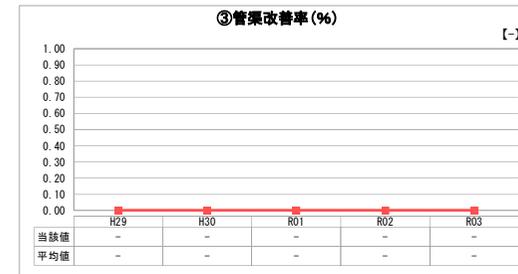
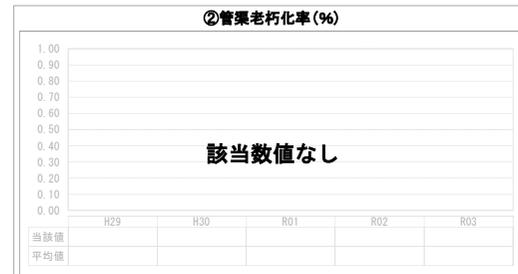
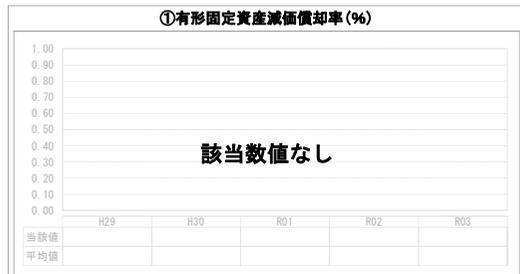
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,390	38.64	475.93
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
82	0.01	8,200.00

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和3年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
平成29年度以降は大きな変化はなく推移している。今後20年から30年後に浄化槽が耐用年数を経過し始めるので、維持管理費の増大を見据えて、経費の節減と計画的な維持管理がより一層必要となる。

④企業債残高対事業規模比率  
地方債現在高と一般会計負担額が同額のため、令和2年度以降0%となっている。

⑤経費回収率  
設置基数に大きな変化がないことから直近3年間ほぼ横ばいである。

⑥汚水処理原価  
令和3年度は前年度比43.95円上昇した。有収水量が281m<sup>3</sup>減少しており、これが主な要因である。

⑦施設利用率  
令和3年度は前年度と大きな変化はない。令和元年度以前と比べ設置基数が増えたこと及び新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加による処理水量の増加により、施設利用率は増えている。

⑧水洗化率  
設置後にすべて使用開始しているため、100%となっている。

### 2. 老朽化の状況について

市町村整備型浄化槽整備事業の開始から間もないため該当はないが、長期的には①に記載のとおり、経費の節減と計画的な維持管理が必要となる。

### 全体総括

供用開始間もないため、全国平均、類似団体平均値に満たない項目があるが、今後も計画的に安定した事業運営ができるよう努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。